



依潜文库

五十五

伍

晋子十七卷

享保九年
其帝元會
也子古曰集
三

5
1139
48



5
1139
48

48



は事しきふあし
山はあはれ
家驢のりりこと
思と報すり
句のしれ仁済の

鉄肝と梅と目
糸と探つてく

桑二畔

貞佐

考や十七子のち〜



Handwritten text in the right margin, partially obscured by a red seal.

享保八年

癸卯二月廿九日

貞佐

し〜と一目かんる梅の露
新く袖たまりのち新書の戸
鶴の尾由尾の心物ま山崎く
針の糸〜あ〜尾母紙にりて
肩ほい〜いおるま春のう
能持獨新まん清清

沾徳
貞佐
青峨
貞佐
沾徳

夕暮好もこころに法事隆
 女好手耕代と建く位
 摘乃葉の誰祐臣町とい止
 を浦艘々少とさハく也
 鬘結ハは羽撒の傷ハ一跪
 音尔下結乃と物小毎原
 害もひけえいく乃謂く有
 人好くやハ醫者子孫も
 人志如くと也ぬ悔ハ屯摩ね希
 多地ハ至為 辰乃一虫習
 吉崎 吉崎 吉崎 吉崎 吉崎 吉崎 吉崎 吉崎 吉崎 吉崎

三ヶ月と青初ハハハニ海
 町范のハ橋庄 兄弟
 掉并く七社の海とゆふと立
 直れさう人母怖 乾利刀
 十月ハ輝ハ弓弦と糸ハハハ
 手片ぬ松おぬ子 膝心板
 一也リ二百三ハハハハハ
 海ハ葉子ハ花ハ大ハハハ
 いハハハハハハハハハハハ
 仇麻の背中琴柱ハハハハ
 吉崎 吉崎 吉崎 吉崎 吉崎 吉崎 吉崎 吉崎 吉崎 吉崎

ちかきく 本けの舟、産不
 たもこのかき紫雲道とのり
 蜻蛉の芥のおうしとわ 春風
 正章と後 言地の古さ子
 生擔桶と鼓く 世より
 かつとめ 姑河さ今一門
 恵きのは小段 艦きん伝ぬ
 粘を仕 豆糸花乃只中
 掃よりら 廿九日 昔の河津色
 何故く とうけ 言比乃念

法河 喜齋 欠作 法河 喜齋 欠作 法河 喜齋 欠作 法河 喜齋 欠作

晋子十七回

去傍り十ののち向七の地

露沾

梅

じめ、園まもあも者、ととを
 醉然花さうけくむ先の着
 と流れ式ア、質 斬き梅
 枝も夢やうく 麻志り 羅波の芳
 海老も梅もいづと昔にこれ、寄
 もる守や 普天の下の梅の梅 翠之

蘭臺 如蒿 章風 蘭山 子稻

宝音と古境と上行奇り

河川を尋ちて梅の自書を在摩

ありていづく腫くそ松先の

和尚等と久く土履の下の

花のたもと手向回向佛と称す

梅、香や眼にもかくも初祖蓮

沾洲

ありてわいと名を品と白しじゆ

立志

欄干にのほき新法師月の梅

山夕

三つやいふらん梅は手柄子

一漢

名か、何花うしづのや場所

青峨

ふれし、古いにんく梅の

園女

宝井と後ては難く後中子
素：畔のわいよをて乞

花はと香、梅は花の兒切至

露人

梅はと山のくしき切柄妙

柯木

人よ名よと折入寸曆梅

正典

と帝もうかつく梅の影心子

玉全

梅はとわけふむらむお手白窓

吟糸

じゆ、香や昔ころよと門の浪

兼十

あややや時計の初く初の花

貴山

まづ、た梅と暮とやしづの香

沾涼

新しむの尻生や蓮鷹崎 硯魚
正め、香ふ軒ゆらぐや乃心若 文楸
百梅のちりまゝ里や出師の里 仙衣
正免若やいや角弓の柔句至 雁山

こころや梅のむとす新しむ

甲陽

年取の手勢と喚やとけき梅 帯江
昔免若や卵塔月のあかみ 治霞
先才くむめ 芳た手向う那 巴水

松光梅の蒼や貝の玉とせしむ

雪の肩抱い去砂丹月の梅 治石

今孝心世子を記薫りや墓の梅 序令
音冬とぬこし力、おん橋 眞佐
名流不離の小窓の斜さ 百里
燭力音へ仇くあしき 琴風
遊しむと晴るる月の皷 晋如
毛 夢ハ名のこやくま 咲 治洲

口情や店賃と出角力元 欠作
 壘の底乃 月ッロウの記 序令
 素如実の縁も果は李時 琴作
 友か〜ひ〜苗弁乃笛 百里
 菟川の算盤と〜角ヶ原 法阿
 行も 珠粒の明古門 晋如
 清元の發地〜付立世リ 席令
 馬舟目アんの馬帽子 琴作
 さら〜と〜暢多女乃申一 百里
 聲一 出おれ 屯 申 出 勝 法阿

こま鳥、蓋元如 奏立〜 晋如
 三日の音 何〜と 壘の腔 欠作
 荷と〜と〜と〜と〜と〜と 琴作
 何、編〜と〜報〜と〜と〜と 百里
 友地の仕 吾子回〜と 法阿
 神中 扇乃内 外〜と〜と 序令
 うつ 波と 海ふ〜と 梓の下 欠作
 三窓〜と〜と〜と〜と 晋如
 一人も 胸す分 出〜と 躁く〜と 百里
 明 びろ〜と〜と 晋の 壘 欠作

此のさる子油と心の手の目と他人
 扱ハ能 表ッ ことりる
 畜経一いさま(ま)息のすれ
 高灯と流とを練る 朔
 齒とくま千新野出々士岸
 物揚るる冬早 相の木
 雲月の白魚小船飛雲
 一白乃聖日 着るる
 うらけの首筋掛少法の乾
 硝く 吾め 記糖いりま様
 序令 法海 吾如 琴作 百里 尺佳 岸令 琴作 吾如

日月
是禪灯

流しつふて而白に涅槃家
 大根子さるは桂子子ふれ
 皆海の小い表も千浮く
 根子海に巨う新鏡外
 月高しか海を流ける敲土
 いとこもをたむの朝顔
 楓洲 貞作 松春 沾洲 青峨 奥尺

風我改

之香の碓氷、馬ヶ荒らと
 引の、ありの碧なる五十年
 撰く、船い並に、信ちけき
 鉄板小尻、い、さ、ら、と
 根生、ち、つ、き、出、れ、る、の、み、め、り、り
 靱の鞆、の、衣、ぶ、さ、く
 引、供、て、丁、子、油、を、指、お、す
 六、老、僧、子、目、路、あ、ら、ぬ、賜
 夕、露、の、援、て、り、ち、と、大、火、繩
 ぐん、と、ん、ま、さ、う、ら、向、目

可圭
 梅酒
 貞佐
 松生
 魚人
 可圭
 沼海
 喜崎
 松生
 貞佐

男、花の分子、此、味、暗、の、歯、打、る、め
 巢、竹、虫、ふ、馬、何、處、有、南、水
 や、ふ、入、の、立、て、と、居、て、も、さ、ら、^蝸居、る
 萬、事、法、一、部、た、ら、さ、一、句
 戸、新、橋、あ、ら、も、活、し、夕、後
 尻、く、老、の、東、鼓、い、六、天
 此、の、拾、ひ、を、回、り、完、全、し
 孔、雀、も、尾、い、皆、且、那、持
 へ、れ、る、め、く、梓、斗、い、女、若、母
 四、五、万、と、修、福、子、神、於

可圭
 沼海
 梅酒
 魚人
 喜崎
 松生
 貞佐
 梅酒
 喜崎

あくとるの但繁より人丹後編 可圭

雑子

やゝ雑子不降うら如周の年 釣亡

わさつら以雑の志うらや石の端 湖常

ち和路や山伏やゝ雑の心 歩石

ことまゝを止雑の雑なる 調柯

明ぬとく降く一悔何なる 夜霜

言ひも言ひまゝ降く降何斑 機風

耳より雑口より他く降何斑 岳岳

如婦原や鹽の先より雑の成り 母谷

あし井手北山明しより小土 又魚

あし和布の砂走より小土 貞佐

まよ色金直く機端も東に極く 古井

下元の世上 弊のふ当に 沾各

疲なく月もきゝ入る旅履 井魚

野菊と犯す 樋の口此言 沾洲

角力も踏に成る花橋の年 度江

たすねり 本家丸く女郎成 又魚

久化して正々をのり一泳ふ
 心可くも 緒酒の足像
 耳達も不川電り次の日
 心付取らずも察の結輪
 やら後の蛾の車いと真い
 播磨乃々い鳥もが死に
 皺草と汁ぬれくろくは
 し夜うらや 白い抵灯
 月音や屯やも同く元
 乾坤ありて付る 百々
 須佐 古井 古井 古井 古井 古井 古井 古井 古井 古井

葦葦の只一湯守子河原果
 女の筆の掛舞と尺面
 紫陽花の露乃あふ雨乃初地
 昔毒の芳煙田よちんと城
 算木餅の母も満夜持
 ちめてし由流け乞乃魚
 先梅の枝のちんがう音の中
 菊の葉出く糞と汚れ
 しのぎにききしれも胸のり
 ちし上ミ下を 強浪人
 須佐 古井 古井 古井 古井 古井 古井 古井 古井 古井

大汐の足跡と向敷十三枚
 燈籠のまじりごとく江戸のまじり
 桐の葉や菊矢の札のまじり
 根付酒のり 葉子まきと飯
 みとりの子の熱中 ^{ホーラル} 一 替幣
 玄葉の花と俊子とを乃
 藤の虫と鼓もうと上と春の天
 祝とつらん 千年の乃乃
 度江 古井 欠位 又魚 沼海 沼者 井泉 祝学

一 さい麦にみりて如左殿
 地 葉の 鈴 蝶の又連 貞佐 徳守
 燈子 柿ころも 雉子の 蛭晴て 沼岳
 杯ころいじやうの 志れぬ 昔嘉屋 即亀
 更けうしん 笑ふ 似る 月の 影 喬谷
 子 掌ふ 歎 晩の 菊さし 徳純
 笛押の 下りく 来ぬ 息 秋の 菊 音峨
 減一と つかい 醒さる 祝学

船の天窓より乞ハ波まふ
 勇ま乃出 雨とぼつとりと
 さや斗舌せく如ても流後あり
 抱身隣 黄香の噴
 すりうまの糸、切らる也鳩の糸
 身加ぬくきんかれ水笑
 世の舞ハさやじ中も舞たり
 船は斗一 ぐさ食し身
 春月のけす越る丹波山
 海の内より 凱歌ふる
 貞佐 出雲 松巴 為石 松巴 喜晴 信純 貞佐

+

機園の何事ゆと嘆も 相好 治岳
 探 取 乃 乃 時 懲り 松巴
 又たゆ 取のお魚乃 雲安さ 為岳
 いゝ 岩根乃 密史の流 信純
 細登ハ只ふけうに 異字と信 青崎
 法ハ 樗乃 けり脚こゝ 色 治岳
 草針のともるを 土詰 信字
 糸ふりし 夢の下 結と 宛あり 貞佐
 拍子木も 更り 箱の 寝セ 不 貞佐
 三 輪ハ 松やよ 年 奇 乃 花 為岳

名月と庭中うつく 青ふくろ
 留ま新其う少 略の指跡 徳字
 切四下の土下に干あふ秋の気 松巴
 僧子女と語へく 博舟 書恋
 仇よはすまふこ水るる 儂 徳字
 探らへた 深縁乃吉 法岳
 審と出る花はさむ 於鼻曲 徳純
 恙こりや海あき大人とらんり 為若

藤

云つとも年ふあ井のわらわ 泉翁
 がさふた、この愛や桐乃屋 東里
 扇柳やまゝさ新の取居字 蓮雨
 幸後子酒とまの向ん敷の屯 尺樹
 虎枕と神、さしをいふに敷 半鱗
 巾の月、棹もまへへ敷の柳 大阜
 弘法乃仁兼子水るる名招屋 桂夕
 割首補貴婦おしへ敷の屯 不有
 扇やいへる庭若死つと柳持 陽風

芳乃と鳥子あつれ扇の花
覺とは目もけけや扇の柳
行ふの上と足せり藤の
後あつてや松子垢あつて朝
初るれと化宗口と扇の華
郁文 麴尺 風之 貞佐 沾升

をとの豆腐屋や栴の花
寐し癖や柳子のふふ二首
面白た香子ししし作物語
物語の香に酔の吹くも向年
乱絮 雪川 也境 倫里

花

此酒は恒川へとろとろの花
あふたの門は白日 暮りあり
ちろ花や名のと結く花の香
指標の香ののや心のむ
とと共袖の利も花の乃
むやもか幕は香と初のさ也
竹苞 宜雨 沾旭 蜂蓋 竹巴 菊丈

月並の月物と自せらるるの
は呼ぶは海を月流の終り
元春の春物と死を花柄の百代

ふ易の侍と道々

蘇と入道花のつら〜の兆也
 哲如 賺 雅もかろやむり於
 香にし〜と志 壺より枝の香
 星 珠〜 純子の帆 龍をの香
 妙 法の花をけりや 花の〜
 戸に 芥子、ゆきを 花乃と志
 花に 招ら〜とふる 母と志 入と志
 明らめ〜とむ〜の母 反古 桂
 華もいよ 正 移〜あ〜の 味の 食

柏李
 沾化
 壺峯
 朝叟
 雲里
 恭我
 雨橋
 松玲
 風葉

千林 法 新 彌

金入 水 蝦 蝦 羨 ぶ 屯 の 鳥
 別れ けい、い、り 高の 栄 橋
 百姓の 肩こも ちの 志 遠く
 小言て ち 水く 中 家 ち さん
 行 ありと 海〜 ち 月も 漸
 心 海乃 月 乃 菌 一 落

長水
 貞佐
 琴風
 大阜
 仙里
 梅子

翁をさしんないかせく 青あし
 利のりわ 神いけけと 百里
 月昏 霜の小判の落紫がく 去る
 臺の鞭 馬まんのこ 仙里
 一節の醒しんとる 菩薩界 琴尼
 ありけりしけりし 竹の影 梅子
 つらふく引つらふく 淫まはる 仙里
 淋 穴有 眼 鯛ま目 欠作
 集めと 舟もめ 小舟隣 百里
 小舟 舟の物 杖の志 大阜

其花

借せとらん 祝の泣や 葵の花 風亭
 己より 襟の 知れ 薔乃止 蘭亭
 系ゆりや 屯の 後ハ 雲より 薰和
 七人の 幸も 如花の 陰あり 壺月
 舌は 葉 蕨と とも 花如吐 風竹
 新く 舌人 知れ 山 潮平
 百の 句と 涙と 海 梅の花 儀樽
 海鳥の 帯と 山 左九 貞佐

花のよみ、忘ぬ幕の蓋が
 文口
 如蝶
 由子
 如真
 友以
 百尺
 角調
 初菊
 山下
 梧夕
 心の澄けくく、華乃怪、初
 花のよみ、忘ぬ幕の蓋が
 文口
 如蝶
 由子
 如真
 友以
 百尺
 角調
 初菊
 山下
 梧夕

騷人のまき流、ゆき、花の山
 吸月
 やゆき、く、國のまき、に、み、ん、幕
 超巴

牡丹

耳枕も大、人、牡丹、か
 今宵
 ち、わ、く、ま、女、ま、ま、牡丹、は
 星
 辛皮のま、う、ま、う、初、ん、外
 琴月
 若、花、ま、ま、女、ま、ま、竹、ん、牡丹
 只尺
 君、う、代、や、精、色、じ、と、う、初、牡丹
 治山
 怪、力、は、活、海、ま、ま、ま、初、牡丹
 風里
 裾、ま、ま、く、く、初、も、ま、ま、つ、大、牡丹
 文里

こけりんの鳴も人か牡丹か
 十年の狭いさうせも牡丹
 李夫人の私睡も牡丹
 花王ともえり侍も牡丹
 玉の香もや李白も牡丹
 今も指乃五寸とさる牡丹
 紅の名も母のねいこ白も
 これも名の心も牡丹
 可きく牡丹に写す牡丹
 花のりや菩薩の牡丹

竹堂
 度江
 蓮谷
 石竜
 芝蘭
 菊字
 松巴
 栖霞
 延齒
 文江

牡丹元や魚も牡丹
 元日おの離る白も
 硝子明も牡丹
 白牡丹何しの牡丹
 人か牡丹と牡丹

角止
 夫器
 吳盞
 覧二
 東雲

しんかん吾の馬の
 可鳥
 やまのやまの
 いとせと鳥の

周東
 山鶴
 鳳翠

春雁十一也 教書やほろり守
うらじけの帳もまゝの時鳥
十二支も乃とまゝや杜鵑
子の杭の枕もまゝや如帰
お啼や弘法あまほろりまゝ
第一目も寝まゝ也 新はまゝ守
時鳥と新まゝや古守 伴万外
心の子も海生一葉 白木老
蜀祝しとまゝは 新の場
詠自とまゝは 新まゝ 時鳥

川楊 戎子 適志 井奥 貞佐 扇樂 白鷗 一葉 蝶汎 薰洞

春を忘るるをいふことと探

能くはるる袖信ふの如く守
多し人他村へ 変り言 梅
丸い守の一角あゝの額
あまほろりめ 守まゝ 入
まゝ也 守まゝ 守まゝ 角白ま
まゝらんまゝ 膚 梳 け
まゝらんまゝ 守まゝ 守まゝ 守
守まゝ 守まゝ 守まゝ 守まゝ

後凋 貞佐 壺峰 風夕 雨橋 詠而 如格 如頁

九思一
 松玉
 覽梅
 沽楓
 泉支
 黛真
 其道
 貞緑
 貞竹
 周午
 一羽

五月廿日

舞妓
 琴雪
 東英
 仙斜
 仙里
 巴水
 味吟
 児峯
 十程

黄くもやあし 藤のまろくを 障之
 さしきりやうりたりの脩尔杭 塩龜
 古とらん名いさしらの星一つ 狐竜
 花より卸、筆や子月西 竹止
 ちりや天鵝絨唐土寺の苔 藤尺
 香いありくもあいなし 東子
 産板屋の服流のくもさき 懐子
 ぬりてさへ田よりや五月雨 立其
 とは油よれさふナ七さき 楓山
 さみくもや毛物の石いさの滝 身作

かへ寸さう 天窓へ遊せ 汗拭じ 徳純
 一本さうし 河原さき 身作
 毛糸ゆゆの矢立ハ酒の串やん 和推
 月人 男 志まらりと 沾山
 双六子 ちかろうそく 笛子麻 貞作
 ちりくさハ くらまれの歌 和推
 今日 紙摺 斗子 雁ハ家、 沾心
 戸の 名と ぬぐ 共 四 目 目 徳純

食之ハ親在りしよおり人
 岸海一しり 花の焼米
 此長ハ罌粟こそ出ぬ九菴草
 戸光不こ子 障子より立
 法幕ハ瓦ト下白大般
 鶴乃中 智五百年一松
 回じしれハ魚としく古家女
 抱仙の存吐 明子て 鮮
 胸の月ふらまけろハ梅 麻
 唇ハ 醫志乃力系が舟
 和推 和推 和推 和推 和推 和推 和推 和推 和推 和推

十

三島をし湯金平中も玉物こ
 佛の婦おより たり好
 雲々け女中々けの旗々々
 香の万斗 香持々香
 拍子乃加う落つ小豆粥
 乞食ハ顔下の金山の石
 唐筆の首ぬけあこ世様
 主ある顔乃 柳 鏡 釣
 か、ゆくも喜日ちいさ起馬の糸
 飛針の徳も解けてる月
 和推 和推 和推 和推 和推 和推 和推 和推 和推 和推

蒼飛て車の両首に物出
 走り 走る、路程、干物、
 夏、云、板外、杖の目
 ちんぷん、ん、多、紫、珠、羅、之
 鰻、師、の、腰、田、へ、落、り、一、庄、浦
 小、葉、お、花、と、瓦、之、頬、指
 花、も、け、小、葉、の、ま、橋、乾、梅、子
 和、尚、子、信、一、て、驚、い、素、深、り
 信、よ、ま、な、は、ぬ、い、わ、お、船
 久石 厚山 貞信 小龜 長乃 厚山 久石

涼

喜、貝、お、ね、け、ら、軸、や、青、涼
 幸、法、師、繁、ね、橋、と、夕、す、み
 判、り、そ、と、海、へ、向、ら、涼、水
 舟、の、糸、乃、香、乾、涼、之、舟
 日、早、夏、と、と、の、海、漸、や、涼
 松、高、う、な、ら、を、汗、お、換、不
 世、い、夏、と、と、く、お、人、お、橋、陰
 鳴、ら、り、や、杖、の、首、付、と、張、す、と
 海、一、さ、は、川、も、夏、ぬ、夏、涼、か
 龍翁 椿井 常柳 舟木 畦紫 如墨 如芳 遅九 巨川

涼し物も楽出豆腐上総浦 沾谷
研人も川の橋柳や夕涼の 長松

能く地と信く因りて地との
一ととすく先陰の遠きとすなりぬ

涼しきなる唯心よそは角公浦 賀角
あなよそと平浮る夕涼の 巴中

蓮

蓮の心もまよやあな人々 林車
見覚や流るる向くも蓮花も 古井
はのすの葉もすくもあな世字に伸 朝相

麻マさうらうと心もまよと蓮の心 芦文
雪の石は大雨とあな蓮花も 一羽
行くもあな柳かろ蓮花も 午風
かくはらうと人新蓮さな蓮の上 古鈴
蓮の心も素とあな蓮の心 拍水
蓮の心も一刷毛蓮の心 曾夕
蓮の心も蓮の心とあな蓮の心 芝光
蓮の心も蓮の心とあな蓮の心 者川
蓮の心も蓮の心とあな蓮の心 對面
蓮の心も蓮の心とあな蓮の心 柳我

おぼくは柿と年々蓮のよ
 明れさうられりや蓮の鳥
 竿いりぬ^①のも柄や蓮百歩
 走くふる花の君もや芝香
 聞せり水つら、蓮せん書ふ
 出まじ、沼とらと花の蓮か

藏六
 沾帯
 雞口
 也聽
 何虹
 貞佐

乾坤打破と
 婦人か
 可也

燕々軒

一持ふらきとめく蓮んか
 一^①切らぬ後摘の羽鳥
 一人ゆく先鮎、枯口と出く
 男如君、孫新ゆりく
 友も如人鼈頭すら、月まふ
 三^②の如魚い子く、さるり

貞磨
 貞佐
 秋浦
 和風
 童翁
 拾翠

